コロナ下のSNS活用苦戦記

Después de Corona〔コロナ以降〕

農的社会デザイン研究所 蔦谷栄一

激変した生活のリズム

コロナで暮らしも仕事も大きく変わった。これまで夜は仕事や音楽がらみで打合せや練習の後、お酒も入れながら食事・懇談することが多く、自宅で夕食をとるのは週に1、2回程度であった。それが外に出かけることが急減し、ほとんど家で食事をするようになった。

これにともない食事をするときの楽しみはyoutubeとなった。それまでは新聞を読みながら食事をすることがほとんどであったが、ここ1年程はスマホでyoutubeを使ってさまざまのジャンルの音楽や落語を聞きながら、まずは缶ビールを一本、その後は日本酒を大きめのぐい呑みで一杯(?)。それからご飯という具合で、1時間ほどかけてゆっくりと食事している。

また都心を往復する時間が基本的になくなったことから、1時間強を近くの遊歩道から小金井公園を一周して戻る散歩にあてている。そして今年に入ってすぐにポールを買い求め、ポールウォーキングを始めた。この話を始めると、これだけで紙幅を使ってしまいかねないので触れるだけにとどめるが、ポールウォーキングに切り替えてから、全身運動になるためか睡眠が深くなったことを実感している。

facebookを情報発信のメインに

そこで肝心の仕事もからめての変化ということで、SNS活用の話である。コロナの影響ではないが、ちょうど昨年の春先からfacebookを始め、コロナとともに現在に至っている。facebookについては幾度もすすめられてきたのであるが、毎日何を食べ、どこへ出かけた等、写真入りで日記的に行動を報告する、というのがfacebookについての先入観であった。こうしたことにはさしたる興味はなく、見ている時間もない、ということで長らく敬遠してきた。それが有線TVの関係で出会ったA氏からあらためてfacebookを始めるようにとの強力な圧力をもらうことに。これまで情報発信はもっぱらホームページで行っており、毎月4本前後のコラムや論評、そして年数本の論文等の執筆原稿が掲載される都度、ホームページに載せてきた。ところがA氏から、今はホームページのような、自分が情報を発信したからそちらからのぞいて見てくれ、というような情報発信の仕方では見る人はほとんどいない。相手に直接的届く情報発信でなければ見てはもらえない、ということをこんこんと諭されることに。情報関係者の言うことだけに、簡単には否定しがたい。確かにホームページに載せてはいても、どれだけの人が見ているのかと問われると、ホームページの読者からの反応は年に数えるほどしかないのが実情。そこで不承不承というか必ずしも本意ではなくfacebookを開始した、とうのが経過だ。

私にとってホームページは執筆した原稿のアーカイブスを兼ねており、執筆本は別として基本的に紙ベースでのストックを不要にしてきた。これはこれで生かしておきたいということで、掲載となった記事はまずホームページに載せ、ホームページからfacebookにコピーして引っ張ってくるようにした。

1年が経過する中で「友達」も約200人にまで増えたが、facebookに記事を掲載すると「いいね!」を中心に反応は20〜30。別途、生まれた孫等の写真を掲載した場合の反応は5、60。facebookで写真とちょっとしたコメントは見て反応しても、そこからクリックして記事を取り出して読むのはなかなか、ということなのであろう。それだけにわざわざホームページを頻繁に検索してのぞいてくれるような奇特な人はこの世にほとんど存在し得ない、ということをあらためて納得することにもなった。

facebookで情報発信力をある程度高めることはできたものの、一方では「友達」から入ってくる情報を見るのも容易ではない。「友達」が増えるほどに、こちらが発信する情報を読んでもらえる可能性は増加するが、併行して受け取る情報も増加することになる。ギブ&テイクということからしてこれは当然のこと。できるだけ「友達」の情報ものぞくようにはしているが、せいぜい1日に10分か15分程度が限界。見ることがかなわなかった「友達」にはごめんなさい、という気持ちで一杯でもある。

これがfacebookの神髄?

こうして限定的にしか「友達」の情報を見ることはできずにいるが、それでもおすすめの本やNHKスペシャル等のテレビ番組、会議・集会開催等についての情報を獲得することも少なくなく、大変に重宝している。

またその情報を流してくれた「友達」に「コメント」することによって密な情報交流を始めた方も何名かできた。例えば、もともとある会合で

ご一緒しており面識は既にあったN氏は、同じ西東京市に住む江戸時代から続く旧家の嫡男である。地元神社の氏子、またお寺の檀家でもあり、頻繁に行われる地元の行事なり家での供養・慣わしについて、都度、facebookで情報発信している。N氏の情報により、地元の歴史・文化・伝統等についてずいぶんと勉強させていただいている。また私がfacebookに載せた江戸時代も半ば、武蔵野新田開発を成功に導いた川崎平右衛門の事績を 10 回にわたって連載した記事を読んで反応してくれたT氏は出版関係で活躍しておられる。川崎平右衛門は武蔵野新田開発を終えて木曽三川の治水工事に当たることになるが、江戸時代の治水技術や、現代における治水問題、あるいはこうした問題に体を張って頑張っている研究者・学者の本を紹介していただいたりもしている。おそらくはこうした関係を結ぶようになるところに、facebookが持つ本当の魅力、意義があるのかなとも思う。

このようにfacebookをつうじて、情報発信のスキルを獲得し、実際に試してみて功罪いろいろあるということではあるものの、要は使い方次第では得るところもそれなりに大きい、というのが現時点での評価である。

さらなる情報発信にチャレンジ

外部との接触が乏しくなる中で、facebookは貴重な役割・機能を発揮してくれているわけであるが、これだけで十分というわけにもいかず、目下、チャレンジ中であるのがZOOMとスマホである。コロナの影響は甚大で、会議・集まりの類のほとんどはZOOMによるTV会議に置き換わった。「招待」を受けての参加には慣れたが、こちらがホストとなって逆に「招待」して会議を開催するのが目下の課題である。私が代表世話人になって社会人を対象に、かれこれ10年以上「銀座農業コミュニティ塾」（4年ほど前に「銀座農業政策塾」から改称）なるものを隔月で開き、講義を続けてきた。これもコロナのために休止を余儀なくされたが、昨年の夏場にZOOMでしばし復活。その後、事務局が忙しいこともあって再び休止状態が続いている。この開催を事務局頼りにしてきたことを反省。自分がホストとなって塾生を「招待」すればいい、ということで、目下、勉強中。

これも含めて、これまで行き当たりばったりで、必要なこと、やらなければならないことに直面すると、ワンポイントでそれに対処してきたのがこれまでの歴史。これはこれでいいとして、基本が分かっていないため、応用がなかなか効かない。あらためて基本的なことも学んでおく必要があるとして始めたのがまずはスマホ教室。スマホは softbank を使っているが、最寄りの softbank の店舗で、体系的に 10 ぐらいの講座に分けて 1 回 45 分の無料講習会開催のポスターを見つけて受講してみた。勝手にごく初歩の講座はカットして 6 つほどの講座を選択。その中の日程が合わない講座については、スペシャルで夕方の時間帯に個人指導してくれることをも発見。これも活用して 1 月下旬から 1 か月ほどで予定の講座受講は全部を終えた。

次の段階として取組中が ZOOM も含めたパソコンの勉強で、当面の取組課題がZOOM、動画、パワーポイントということで、それぞれのテキストを購入して目通し。それだけでは全体像が見えないということで、「パソコン教室」なるDVDを購入し、これを見ながら、詳細についてはテキストを読みながら亀の歩みをすすめている、というのが現状だ。

年寄りこそ必要なインターネット

組織で仕事をしている時には、システム担当や周りの若い人に一声かければ教えてもらえたものが、組織を卒業した途端に野に放たれた赤子の如くになった。年齢に関係なく、これまでの経験等をバトンタッチし、情報発信していくにはインターネット、SNS を活用せずしては不可能な時代になってきていることは確かだ。今さらあらたな苦労を背負いたいわけもないが、facebook で一条の光を見つけたような感があることも事実である。年齢をとって外に出るのが難しくなるほどに、インターネットを活用して交流・社会参画していくことはますます必要になってくる。コロナが先んじてこれを教えてくれたと理解したい。